
LactPren～農業体験・環境教育から学ぶ 地域連携と食教育～

第1章 プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの目的

- ① 京都市伏見区深草地域および京都市北区小野郷地域を中心に活動し、学生を主体として、地域の人々や諸団体と連携・協力しながら環境整備活動や農業体験を通して地域貢献を目指す。【実践的活動を通じた地域連携】
- ② 食育のイベントなどを通じて、参加者に食の大切さや安全性について意識するとともに、学生が将来教師になった際の正しい食教育の知識を養う。【学校における食教育の考察】

地域との連携が重要視されている昨今の学校教育であるが、実際、地域とのかかわりの希薄さが問題視されている。そのため、将来教師として教育に携わる私たちが農業体験や環境整備活動等の実践的な活動を行い、様々な立場の人々の交流をしながら学校と地域の連携について考察していきたい。

次に、食育とは、国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣、食に関する様々な知識、食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組みを指す。また、食はわたしたちの生活の根源であり、喜びでもある。そのなかでも農作物を「育てる」→「収穫する」→「調理する」→「食べる」というサイクルと私たちは意識せずとも深く関わりを持っている。しかし、私たちの多くは「調理する」、「食べる」の二か所しか関与しないことがほとん

どである。食育活動を通じて、育てることの苦労や、収穫することの喜びを子供たちに実感させることも本プロジェクトの目的である。

文科省は「近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。また、食を通じて地域等を理解することや、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することも重要です。」と示しており、昨今の学校教育でも食教育は重要視されており、食に対する正しい知識と生産者の苦労等を学び、将来教員として教壇に立ったときに正しい食育が出来るよう様々な経験を行う。

小野郷地域においては米や野菜を育て収穫するという生産の過程を学ぶと同時に地域の方々と協力して作り育てることの喜びを感じ、深草地域では食育のイベントを通して参加者に食の大切さと育てることの大切さを伝えていきたいと考えている。

(2) 代表者および構成員

- ・代表者：竹田美月 社会領域専攻 3回生
- ・構成員：岸本大樹 社会領域専攻 4回生
- 高下真由 社会領域専攻 4回生
- 中牟田奈歩 社会領域専攻 4回生
- 水上咲希 社会領域専攻 4回生
- 世古千春 家庭領域専攻 3回生
- 世古春香 社会領域専攻 3回生
- 奥田大揮 社会領域専攻 2回生
- 坂口諒 社会領域専攻 2回生
- 坂田裕次郎 社会領域専攻 2回生
- 弘田真基 社会領域専攻 2回生
- 平野拓郎 社会領域専攻 2回生
- 松田良子 社会領域専攻 2回生
- 山中翔太 社会領域専攻 2回生
- 松岡翼 社会領域専攻 1回生

(3) 助言教員

武田一郎先生 (社会科学科)

石川 誠先生 (社会科学科)
A・オーバーマイヤー先生 (英文学科)

(4) 協力団体と協力者

・協力団体

NPO 法人 京都北山悠悠自然塾

NPO 法人 深草ふれあい隊 竹と緑

伏見区役所深草支所

龍谷大学政策学部清水ゼミ

京都市立芸術大学美術学部高井研究室

・協力者

石野沙織 本学大学院 社会科教育専修

菊池 聡 社会領域専攻 4回生

永原友輝 社会領域専攻 4回生

星野菜穂子 理科領域専攻 3回生

本屋敷結衣 大阪大学文学部 3回生

第2章 内容と実施経過

◇京都市北区小野郷について

【概要】

京都市北区に北山杉で知られる小野郷地域がある。小野郷地域までは JR 京都駅からバスで1時間程度の距離でありながら、山間部を流れる清流や美しく整備された北山杉や季節によって様々な様子を見せる森林などが生い茂る森林、澄んだ空気という魅力的な環境をもつ地域である。

しかし、小野郷は現在、高齢化や人口減少が深刻な問題となっている。そのため、耕地・放棄地(休耕地)をどう活用していくのか、また地域活性化を目指していくうえでどのようなことができるかを行政(京都市)や地域住民、NPO等が各種取り組みを行っている。

平成22年度より LactPren が「e-Project@kyokyo」に応募し、農業体験を通して地域の活性化や地域の人々との関わりについて考える活動を行ってきた。今年度も小野郷地域で農業体験を通じた地域連携に目を向けた活動を行った。

【実施内容】

・田植え

日時：4月29日(水・祝) 5月3日(日・祝)

場所：京都市北区大森

参加人数：

・学生(8名)

卒業生 小仲、大上

4回生 高下

3回生 竹田

2回生 阪田、弘田

内容：

○9:00～ 学生集合

○9:30～ 理事長、LactPren 代表の開会の挨拶、田植えについての説明

その後田植え開始

・大人や学生と子どもがペアになり一列ずつ田植え

・ついた泥は川で洗い流しました。

○12:00～ 昼食

○12:30～ 学生によるレクリエーション(4/29のみ)

・2チーム対抗の種目リレー

(バットでぐるぐる、ジャンケン、

ボールトス10回、クイズ)

レクリエーション終了後は、川や田んぼで子どもたちと生き物探し

○14:00～ 閉会式、解散

(活動の様子)





・サツマイモの苗植え

日 時 : 5月16日(土)

場 所 : 京都市北区大森

内 容 : 今年度初めての畑作業であり、昨年度の感覚を思い出しながらメンバーと協力して活動した。

・夏期研修

日 時 : 8月27~28日

場 所 : 京都市北区大森

内 容 : 今年度も昨年度と同様に現在休校となっている小野郷小学校中学校を利用して、夏期研修合宿を実施した。今年度は昨年とは少し違い、畑になる前の休耕田の土おこしから始まり、畝づくりもNPO協力のもと学生主体で行い、大根・白菜・人参・ネギの種まきを実施した。今年度初の試みとしては、京野菜(聖護院大根・九条ネギ)を植えた。

・稲刈り

日 時 : 9月5日(土)

場 所 : 京都市北区大森

内 容 : 春に植えた稲の苗を鎌を使い、手作業で刈った。田植えに参加して下さった方々が稲刈りにも多く参加して下さり、とてもにぎやかな活動となった。植えて収穫するという経験を通じて植物の生長を感じられ、また古くから行われてきた稲刈りを体験でき、良い経験になった。稲刈りの後には餅つきを行った。



・野菜の収穫

日 時：11月12日（水）

場 所：京都市北区大森

内 容：夏期研修合宿で実施した種まきから成長した野菜の収穫を行った。昨年も一定量の収穫は行われたが、今年は以前まで休耕田であった田畑を使用したため、畑に含まれた養分も多かったためか、例年よりもはるかに野菜のサイズも大きく、また収穫量も例年より多かった。これら収穫した野菜は、藤陵祭で販売する。



・藤陵祭

日 時：11月13（金）～15日（日）

場 所：京都教育大学

内 容：例年通り、収穫した野菜や米、大根煮、そして昨年大好評であったスイートポテトを販売した。今年度の発見としては、大根煮の売上はその年の気温や天気などで左右されることで、それらの条件に合わせて適切な量の野菜の収穫を行わなければいけないことである。

・大岩山整備活動

日 時：9月15日（水）

内 容：本学近辺にある大岩山において、本学体育会のアメリカンフットボール部、社会領域専攻1回生の協力を得ながら、枯竹や不法投棄物の撤去などの整備活動を行った。

また活動のPR方法としてはLactPrenの小野郷での活動の様子をパネルやスライドショーで流すほかに、活動の内容を書き記したパンフレットも作成した。



・朝市

日 時：10月18,25日、11月1,8,22,29日

場 所：京都市北区大森

内 容：10月～11月毎週日曜日において、NPO法人主催の朝市の手伝いを行った。小野郷で収穫した野菜がずらりと並び、地域の人々は勿論のこと、偶然その場を車で通りかかった人々なども立ち寄り、にぎわいを見せていた。学生は野菜の販売や看板立てなどの活動を行う。





・大岩山における竹柵整備

日 時:11月25日(水)

内 容:大岩山において、通路の竹柵の整備活動を行った。竹をひもで縛って、柵として固定する作業はなかなか難しかった。



〈五感でごはんについての報告書〉

日 時:平成27年10月25日 10~13時

場 所:市民農園風緑

参加人数：15名（子ども9名、大人6名）
学生；12名（龍谷大学 10人、
京都教育大学 2人）

内容：

今回は、「五感でごはん」の新しい取り組みとして、深草の竹を用いた竹細工体験を行い、参加者には、のこぎりとやすりを使って、竹コップ・竹箸・竹皿を製作してもらった。製作した竹細工は軽く煮沸消毒し、ミニランチを食べる時に使ってもらい、そのまま持ち帰ってもらった。竹細工を通して、自然との触れ合いや自分の食器を作る楽しさを食育に取り入れることができたように思う。

農園での収穫体験は、水菜を収穫し、市販されている水菜との食べ比べを行った。参加者からも、風味の違いを強く実感する声があり、自分で食材を選ぶ力を身に付ける活動として成果があった。

ミニランチは、芋ごはん、豚汁、漬物。豚汁には、龍谷大学清水ゼミの学生が農園で育てた野菜（大根、ネギ、ニンジン、ごぼう）を使用し、農園や清水ゼミの活動を告知するのに役立った。また、ミニランチ後、野菜当てのプレゼントクイズを行った。

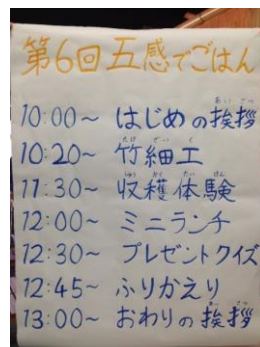
学生スタッフは、①調理班と②竹林班に分かれて活動した。

〇8時30分 スタッフ集合

・学生間でメンバー、役割を確認

調理班：調理開始

竹林班：会場設営



○9時30分 受付開始

- ・名札配布、参加費徴収

○10時20分 開始

- ・参加者の集まりに合わせて、当初の予定より約20分遅れでスタート

竹細工の作業中に到着した参加者が一家族あった

- ・司会と河合さんから挨拶
アレルギーや好き嫌い、FB等への写真掲載の承認、タイムスケジュールの確認

○10時40分

- ・竹林へ移動し、竹細工のための竹の切り出し



○11時30分 収穫体験、食べ比べ

○12時 ミニランチ、プレゼントクイズ



○12時30分

- ・一家族ごとに感想を聴いた
- ・杉井さんから挨拶（主に竹と緑での活動について）





○13時

- ・おわりの挨拶
- ・全体写真の撮影
- ・解散



○14時 反省会

第3章 結果や成果、反省、今後の展望

(1) 結果や反省

京都市北区小野郷においては、今年度も田植えから始まり、サツマイモの苗植え、稲刈り、野菜の収穫、朝市体験様々な活動を行うことができた。さらに今年度は初の試みとして、京野菜の栽培や、また夏期研修において畑の畝づくりから行うなど、学生主体を掲げてきた本団体の特性がよく表れた活動であったと思う。

また大岩山においては清掃活動や竹柵整備など毎年行っている活動を本年度も継続して行うことができ、深草地域の人々とこれからも協力して活動していきたい。さらに食育活動においては、昨年同様、伏見区の市民農園風緑において龍谷大学政策学部清水ゼミとの共同企画で、親子参加のイベントを開催した。

今年度は野菜の収穫やスーパーの野菜と採れたての野菜との食べ比べだけでなく、参加者の子どもたちが竹をのこぎりで実際に切って、器や箸をつくるといった活動も行った。教師を目指す私たちが、食の大切さや食や栽培に携わる人々の様子といったものを食育活動を通して学んでいくことは有意義であると考え

(2) 今後の展望

今後はさらに NPO 法人京都北山悠悠自然塾や NPO 法人深草ふれあい隊「竹と緑」そして行政(伏見区役所深草支所)と連携しながら、農業体験学習、環境学習、食育についての考察や実践を継続していきたい。さらに学校・教員・地域の連携が重要視されている現在において、我々学生が地域の人々とどのように関わっていくか、またどのような働きかけを行っていくべきなのか考えていきたいと思う。